



西消防団だより

平成28年冬号（通算第8号）

発行／編集：横浜市西消防団広報委員会 〒220-0041横浜市西区戸部本町50-11 西消防署庶務課内 (Tel.045-313-0119)



「この街を守る！」
実災害を意識した
震災・津波対策訓練



金属等を切断出来る資機材「エンジンカッター」

夜間に震災が発生した想定で、第一分団は、震災対策訓練場にて人命検索や各種資機材を用いた倒壊建物からの救助救出、仮救護所の設営や応急手当などを含めた訓練を行いました。



まだ暑さも残る10月初旬、横浜市消防局消防訓練センター（戸塚区）において、昨年に続いて、各分団の管轄する地域の特性を踏まえた、震災・津波対策訓練を実施しました。



（※次ページに続く）

第三分団は、商業ビルやマンションなどの中高層建物における人命検索や救助救出活動を、同センター内の訓練塔で行いました。



第二分団は、同センター内の消火訓練場を使用し、木造住宅密集地域での活動を想定した、消火および延焼防止訓練を行いました。



照明機材も素早く設置する



大規模災害の場合、通信インフラの障害が考えられることもあり、無線による情報の受伝達が非常に重要となります。



第三分団は、管轄に横浜駅やみなとみらい21地区が含まれることもあり、中層建物での人命検索や避難誘導の訓練を重点的に行いました。

訓練センターを伝える貴重な一日を過ごし、参加した団員たちはそれぞれ技術や知識、経験を身につけられたと笑顔で帰路につきました。



また、全分団の訓練終了後には、大震災が起きた場合の帰宅困難者対策などについての講義もありました。



建物内各所にいる要救助者を検索し、必要な場合は応急処置を施しながら、屋外へと誘導することが出来ました。



2月、今年で5回目となる車輛救助救出訓練を西消防署中庭で行いました。この訓練は、本物の乗用車を使用し、大規模災害などの際に消防団でも救助活動が出来るようにとの団員の声からスタートしたものです。

(※次ページに続く)



平成25年に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、地域防災力の要としての消防団に期待が高まる中、平成28年は配備された救助資機材の習熟にも力を注ぎました。

**繰り返しで身につけよう
救助資機材は強い味方！**



今、私たちがやるべきことは、この栄誉に甘んじることなく様々な訓練や研修を重ね、地域の方々に防災意識を高めて頂くための防災指導や救命講習などを行い、皆で協力して私たちの西区を災害の少ない安全で安心の出来る町にしていきたいです。

3月には平成27年度消防功労者消防庁長官表彰式において、「防災思想の普及、消防施設の整備、その他の災害の防御に関する対策の実施について、その成績が特に優秀で、かつ、他の模範と認められる」全国32の消防機関のひとつとして、西消防団が表彰旗を受賞しました。

幸いにも、この横浜には大きな地震も無く台風の上陸も少なく平穏な日々が続いていますが、必ず大きな地震、大きな台風が来るものだと思いに銘じていなければなりません。

また、本来、赤道付近で発生し偏西風により北上することの多い台風が、今年は日本付近での発生が多く、特に台風10号は関東・東海の南海上で発生した後、Uターンして東北地方に上陸し、岩手県や北海道に甚大な被害をもたらしました。

(※前ページより続き)
参加する全団員が気を引き締めて、無理をせず、事故なく進めるようにとの矢部団長の言葉を受け、訓練が開始しました。



第一分団の訓練は、倒壊建物を想定した、がれきや狭所のある訓練場での救助活動となるため感染防止衣やプロテクター等をしつかりと身につけます。



木造住宅密集地域を管轄に多く持つ第二分団は、夜間に大きな地震が発生した時の住宅街を想定した、人命検索も含んだ総合的な訓練を実施しました。



要救助者役は他分団が協力する



出場から本部の設営、各種活動から終了まで、貸与されている無線を活用しながら、実災害と同様にその時々での判断をしつつ進めていきました。



ガンタイプノズルも使用した多方向からの放水には女性団員も加わります。



日頃、地域の皆様には、消防団活動にご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

又、消防団員の皆さまにも普段から精力的な活動をして頂き重ねて御礼申し上げます。

さて、今年は春から震度5を超える大きな地震が頻繁に起きました。

4月には、熊本で前震そして本震と震度7を2回も観測し、6月は北海道、10月には鳥取で震度6弱、そして11月22日には東日本大震災の余震ともいわれる震度5を記録し1.4mの津波も発生しました。



団長 矢部 孝一

ご挨拶

入団一年以内の新任団員も、自分たちが今後使用する資機材を早く理解しようとする意気込みが溢れていました。



そして、5月には発電機やチェーンソー、小型可搬ポンプなど従来の資機材と車両の一斉特別点検を行い、状態の確認をするとともに、各資機材取扱の基本を復習しました。



消防団車輛で災害現場へ向かう時におこなう緊急走行をするには「道路交通関係法令及びポンプ工学に関する専門的知識を有していること」「消防自動車迅速かつ的確に運行できること」の両方を満たした機関員が運転している必要があります。

より安全に、迅速に 消防団員専科機関科教育

どのような資機材も、日々の適切な管理と正しい取扱い、そして使用時の安全確認の、どれか一つたりとも疎かにしてはならないと、これらの訓練を通じて、また強く認識出来ました。



発電機をうまく起動させられるかな？

毎年行っているこの訓練は、乗車や下車、駐停車などの際の基本的な安全確認と、実際の消防団車輛の走行で重要な交差点進入時のアナウンスや、駐停車車輛、歩行者への対応など応用力と判断力が必要となる内容が詰まっています。

(※次ページに続く)



そのため、1月には専科教育機関科の一環として、KANTOモータースクール（横浜西口校）にて、夜間緊急走行訓練を実施しました。



第二分団 分団長
和田 康雄

また、平成29年は、災害が発生した後に重要となる自分たちの災害対応各種訓練とともに、災害の予防や、起きてしまった災害の被害をより少なくするための減災行動について、地域へ積極的に呼びかけ、指導を進めてみようと考えています。



第二分団では来年の10月に消防団の競技大会である「横浜市消防操法技術訓練会」に西消防団代表として出場する事が決定しており、日夜訓練に励んでおります。

消防操法とは、総務省消防庁の定める『消防操法の基準』で定められた、火災消火を想定した資機材の取扱い方や動作の身に付ける訓練で、消防団員としての消火活動を中心に、すべての災害現場で活動していく上で必要となる基本をまとめて身に付ける事ができる、大切な訓練です。

この大会で良い成績を残すことは簡単なことではありません。

一年を通して、さまざまな訓練や活動を毎週末に行っておりますが、

←

(※前ページより続き)

新たに貸与となったチルホール（可搬式ウィンチ）をはじめ、油圧ジャッキやエンジンカッターなどの救助資機材の取扱いについて、浅間町特別救助隊から詳しいレクチャーを受けました。



手で車輛や倒木などの牽引ができる資機材「チルホール」



展示通りにするのではなく、実災害のように考える
※挟まれているのは訓練用のダミー人形です

その後、特別救助隊による展示を見学し、消防団員のみ部隊による車輛からの救助救出活動訓練を行いました。



車輛前部に店舗外壁と挟まれた一名、下部に車輛の下敷きになった一名、合計二名の要救助者がいるという想定が与えられ、各分団から選出された中隊長1名と、各班長が小隊長として班員を指揮していきます。



また、4月には救助資機材の理解と習熟をはかるため、救助用資機材取扱訓練が実施されました。



あいにくの天候でしたが、参加した団員は雨をものともせず、真剣な眼差しで各説明に見入っていました。



パーツの交換で多用途に使用できる

使用時の安全管理などについても、他の訓練以上に詳しく知ることが出来るものが多い一日となりました。

分団長 コメント



第一分団 分団長
半田 伊津美

平成28年、第一分団は新入団員や若手も増えたこともあり、基礎の習熟を意識した一歩一歩の成長の年でした。

私たちの分団が管轄する地域には、木造住宅が連なり、狭い道路や階段、急な坂が入り組んだ高齢の方の多いエリアも少なくありません。そのような場所で災害が起きた場合、消防団の力がより一層必要とされます。

私自身、災害出場や消火訓練、救助救出訓練などを重ねる中で、災害現場の状況把握、連絡、共に活動する団員の安全管理、臨機応変な対応等、指揮者の判断力、決断力が如何に重要かを再認識しました。

明日起きるかもしれない災害、ついあれもこれもと気が焦りがちですが、新人からベテランまで一人でも多くの団員が確実な技術と知識を身につけ、怪我無く活動が出来るよう、これからもコツコツと色々な経験を皆で積み重ねていきたいと思っています。

この広い敷地を利用して行う訓練は、各活動隊と分団本部や、分団本部と団本部間などの情報受伝能力の向上も目的でしたが、今までと比べてその上達が実感できる結果となりました。



また、消火隊は消火栓など火点に近い水利が使用できない想定のため、何本ものホースと小型可搬ポンプを使い、中継送水を行なって消火活動にあたりました。



建物内に複数の要救助者を発見。がれきを排除して開口部を作り、要救助者の傷病程度を観察・判断しながら、各隊が連携して救助活動を実施します。

「第50回神奈川県消防操法大会」では、県内女性消防団員による震災想定訓練展示が実施されましたが、西消防団の女性団員たちは日頃の訓練や活動の成果を発揮し、小隊長を担うなどの活躍ぶりを見せました。



平成28年という年は、1/3以上という全国屈指の女性率を誇る西消防団の「女子力」がひときわ輝いた年でもありました。



女性団員のチカラが輝く 都市型消防団へ！

桃の節句に行われた女性団員強化訓練



新入団員にも続々とやる気のある女性たちが

災害は、誰の上にも平等にやってきてしまうからこそ、男女ではなく個々の能力や体力によって出来ることを増やし、かつ、女性だからこそその長所を活かしていく必要を感じました。



また、11月には全国初となる、実災害を想定した県内女性団員による合同震災対応訓練が行なわれましたが、そこでも西消防団の女性団員は臆することなくその本領を発揮していました。



第三分団は、これまでも団員の基礎能力向上に取り組んでおりましたが、切迫性が危惧されている大地震等に備え、平成30年度より横浜市すべての消防団で『消防団員の基礎的諸能力の確認』が実施されることとなり、その達成を目指して、毎月第3日曜日に基礎訓練を実施しております。

消防団員として身につけなければならない項目は、大きく分けて、訓練礼式・消火活動・ロープ結索・資機材の取扱い・救命処置ですが、毎月項目ごとに訓練を行っております。

たとえば、消火活動一つをとっても、まず消火栓の蓋を開けるだけでも重量があり安全管理の必要もあって大変です。そこにスタンドパイプを立てホースを繋ぎ、ポンプに結合して、そこからまたホースを2本3本とのびし放水するのですが、素早く確実に消火に有効な放水を行うためには、訓練を重ねなければ、なかなかスムーズに行きません。また、平成25年12月に施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」による消防団の装備の基準等の一部改正もあり配備が進むエンジンカッター・油圧切断機・可搬ウィンチなどの救助資機材も、注意深く取り扱わないと怪我や重大事故の恐れもあるため、安全管理を徹底しております。

これからも、地域防災力の中核として、地域の皆様に信頼を得られる消防団を目指していきます。

(※前ページより続き)
また、7月には道路交通関係法令や緊急走行、ポンプの構造等についての座学と、ポンプ運用や機関整備の実技講習を一日かけて実施しました。



午前中は西消防署の警防課機関員養成指導者から、機関員の使命とは何かという根本の部分から、道路交通法や車輛運行の際の留意点、可搬ポンプの基礎知識など、ふんだんなスライドを用いた授業で教わる事が出来ました。



午後からは、消防署中庭に出て小型可搬ポンプの仕組みや基本的な取扱い方、操作時の注意点を教わったのち、常備消防隊のポンプ車から小型可搬ポンプを中継しての放水訓練も実施しました。



この全ての養成教育が修了した団員には、緊急走行機関員の資格が与えられるのですが、喜ばしいと同時に大きな責任も負うのだということを強く考えさせられました。



今年で6回目を迎えた 隣接消防団との合同訓練

12月には、今年で6回目となる震災を想定した木造住宅密集地域消防救助救出合同訓練を横浜市資源循環局保土ヶ谷工場(保土ヶ谷区)の敷地内で実施しました。



隣接の保土ヶ谷消防団とのこの合同訓練は、震災等で消火栓が破裂したりがれきでの埋没等によって使えなくなった場合を想定し、木造住宅密集地域での遠距離中継送水による消火訓練と、倒壊した建物からの救助救出訓練を同時に行うものです。



それに加えて、平日の夜間に行うこの訓練も重要視して頑張っています。出場する選手はもちろんのこと、訓練を支援する団員も、仕事が終わってから夜、西消防署に集まって、暑くても寒くても汗をかきハードに訓練しております。

消防団は自分の地域は自分たちが守るという精神で集い、とすれば大きな危険も伴う災害現場で、チームとなって活動します。大会で優勝する事が必ずしも大切な事ではありませんが、一つの目標を持ち団員たちが一丸となって協力し合い、消防団としての士気を高め、絆を深める事ができる、とても重要な訓練の一つであると考えております。

このような訓練の中で培ったものを基に、即時対応力や地域密着性を高め、より安全な地域作りのために、これからも第二分団は精進を重ねていきたいと思っています。私たちとともに活躍してくれる消防団員を随時募集しておりますので、是非よろしく願います。



第三分団 分団長
小長谷 修司

両輪の輪



各種の訓練や研修、災害活動、防災指導や応急手当講習など、日頃から消防署と消防団は連携・協力しています。今回はズバリ！「署団のつながり」についてコメントをいただきました。

備え

西消防署長 中嶋 俊明



西消防署長の中嶋でございます。早いもので着任から2年近くが経過いたしました。この間、西消防団の皆様には防火安全対策はもとより、地域活動の支援など多方面にわたって御尽力を賜り重ねて感謝申し上げます。

さて、平成28年中は、4月に熊本地方を震源とする地震や6月の梅雨前線に伴う大雨被害、8月から9月にかけては台風が連続して襲来するなど全国各地に大きな被害をもたらしました。大災害は必ず来るということは誰もが否定しませんが、いつ来るかという

パイアス（都合の悪い情報は正常値の範囲と思ひ込むこと）と言っています。天災は忘れた頃に・・・とありますが、人々は天災の凄まじさを忘れていく訳ではないと思います。忘れてしまふのは「備え」です。天災は備えを忘れた頃にやってくるという方が適切かもしれません。

西消防署は2019年に創設から100年の節目を迎え、次の100年へ向けて新たなスタートを切ります。そのような中、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることや、発生する確率が極めて高いと言われている南海トラフ巨大地震、更には、近年の社会情勢からテロ災害も懸念されるなど、西消防団の皆様とともにあらゆる災害にしっかりと対処できるよう備えていかなければなりません。



今後も、いままです以上に西消防団・西消防署の連携を深め、着実に「備え」を整えてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

都市型消防団の充実に向けて

西消防署 庶務課長 福元 五喜



平成28年4月1日付で西消防署庶務課長に着任しました福元でございます。

地域防災の要として、日夜や訓練や災害現場で活躍されている西消防団の皆様には感謝申し上げます。

西消防団は、横浜駅周辺や高層マンション、大型商業施設の集中する地域から、下町情緒を残した市街地まで、多様な顔を持つっている地域を管轄する「都市型消防団」です。

4月以来、西消防団の訓練会等に参加させていただき感じたことは、地域特性を考慮した訓練を自ら考え、立案し、行動（訓練）に移すことの出来る

「成熟した消防団」であることを実感しました。

また、10月に開催された県下女性消防団の合同訓練会では、女性消防団の技術・知識ともにハイレベルな訓練を披露することができました。

複雑多様化する災害に対応するには、「資機材等の習熟」に加え、「地域の垣根を越えた連携」が必要になってくると思います。

今後、危惧される大規模災害に対応するため、消防署・消防団が一体となり「地域の防災力」を高めていきたいと考えております。



強固な西消防団の絆

西消防署 境之谷消防出張所長 吉野 庄治



平成28年4月1日付で西消防署境之谷消防出張所長に着任しました吉野でございます。

日頃から、西消防団の皆様におかれましては、地域防災力の向上を目指し、地域住民に対しきめ細やかな防災指導にご尽力いただきありがとうございます。また、都市型消防団として、消防団本部を始め、全分団が一元となつて、災害対応能力の向上に積極的に取り組んでいる姿を拝見し、西消防団全体が、団員と地域、団員と団員とのつながりを大切にし、活動している消防団だと大変心強く感じているところでございます。

着任前までは、広報誌などを見て活発に活動している消防団であることは知っていました。が、防災指導や各種訓練と一緒に仕事をしていく上で、分野ごとにその道のスペシャリストがいて、そのスペシャリストが中心となつて、西消防団全体訓練が実施され、都市型消防団に必要な災害対応能力の向上に

努めているのには驚きました。

これからも、各種災害に向け、訓練に取組んでいただくとともに、消防署と消防団が連携を強固にし、つながりを大切にしながら仕事を進めていければと思っています。

微力ながらも、ポンプ関係でご支援できればと思っていますので、どうぞよろしく願います。



西消防団の活動に

感銘を受けて

西消防署 浅間町消防出張所長 鈴木 健



浅間町消防出張所は、横浜駅西口周辺の市街地を所持区域とする一方で、延焼火災の危険性が高い木造住宅密集地域を抱えるなど、地域特性に鑑みた



的確な活動が求められています。また、特別救助隊と救急隊が配置されていますが、特別救助隊は火災も然ることながら、車両事故や水難事故などにも出場し、救急隊に至っては市内の救急隊70隊のうち、上位の救急出場件数を記録するなど、昼夜問わずに活動しております。

西消防団とは、車両事故対応訓練や救助用資機材取扱訓練など、特別救助隊との連携訓練を行っておりますが、西消防団の活動能力の高さに毎回感服するとともに、消防団員一人ひとりのその活動に対する熱意と地域に対する強い思いには、消防職員も非常に感銘を受け、良い相乗効果をもたらしております。

今後、首都直下型地震などの大規模自然災害が危惧される中、地域防災力の向上を図るためには、西消防署と西消防団が連携を深め、消防訓練や防災指導などの活動を地道に積み重ねていくことが重要であると考えます。有事の際には、その成果を地域の皆様のために如何なく発揮できるよう、今後も連携した活動をよろしく願っています。

地域の安全・安心を守る、消防団と消防署の連携



【消防団】とは、消防署と同じ消防組織法で定められた消防機関です。横浜市の消防団員は、非常勤・特別職の地方公務員で、普段は本来の仕事や学業、家事をしながら、その地域での経験を活かし災害その他の必要な時に活動します。

西消防団は、西消防署と日頃の訓練や講習において顔の見える関係を築き、火災発生時における消火活動や、地震や風水害などの大規模災害発生時の各種活動、また、平常時においても応急手当の普及指導、自治会や企業などへの防災指導、特別警戒、広報活動等を実施し、地域防災力の向上に重要な役割を担っています。





横浜市は消防団員が消防吏員と同じ
応急手当指導員の資格を取得可能なた
め、西消防団では上級救命講習を積極
的に開催し、知識と技術を高めて、資
格取得者の増加を目指しています。



上級救命講習開催で 応急手当指導員の増加を

この講習を繰り返し受けることで、
自分たちが行う災害現場での応急手当
活動に役立つだけでなく、資格を取り
応急手当の普及啓発活動を行うことで
地域防災力の向上にもつながるため、
どの分団もそれぞれの内容の理解を深
められるよう、創意工夫をこらして発
表や指導をしていました。



上級救命講習は心肺蘇生法やAED
の取扱い、三角巾法や傷病者の搬送な
ど、各種応急手当法を身につけるため
のもので、年に3〜4回程度、各分団
がローテーションで主催しています。



毛布等を利用して傷病者を搬送する方法もある



西消防団は応急手当指導員の資格を
もつ団員を中心に参加、AED体験コー
ナーで多くの市民の方々に心肺蘇生法
とAEDの体験をしていただきました。



「救急の日」である9月9日、横浜駅
東口地下広場・新都市プラザにて、西
消防署と西消防団共催によるイベント
『救急フェア』が開催されました。

9月9日は救急の日！ 横浜駅で救急フェア開催

また、こども防火服やバールンアー
トのコーナーも好評で、お子さん連
れの方がたくさん足をとめてくださ
いました。



AEDや心肺蘇生法について、興味・
関心をお持ちの方から熱心な質問を受
けることもありました。



積み重ねが信頼を生む 署団連携訓練

西消防団は日頃、管轄内の建物火災
等への出場も迅速に行い、放水や各種
支援活動で常備消防と連携しています。
確実な連携活動を可能とするために、
多種多様な連携訓練や座学での研修が
一年を通して実施されています。



消防隊のポンプ車から水利を分配（第三分団）

常備消防の先着隊がどのような戦術
で消火活動にあたっているのか、そこ
に消防団が着いた場合にはどのように
連携して放水するのか、消防団が最先
着の場合は、なども学んでいきます。



このような訓練・座学を、団全体や
分団ごとで実施していることもあり、
災害現場でも情報の伝達がスムーズに
行われ、活発な活動に繋がっています。

消防団が行う消火活動	
(消防隊到着前)	(消防隊到着後)
1 火元建物の火勢鎮圧、 延焼防止の放水活動	1 公設消防隊と連携し た注水活動
2 小火等への初期消火 活動(消火器等)	2 延長ホース整理と安 全管理
3 消防警戒区域の設定	3 指揮本部の指示によ る活動



今回は、新人や操法未経験の団員も
ベテランとともに選手になって基礎と
絆を固めることを目指す大会でした。



横浜消防局消防訓練センターにて、
平成28年度西消防団消防操法技術訓
練会が開催され、出場各隊が訓練の成
果を競いました。

新人選手も大活躍！！ 西区消防操法技術訓練会



パシフィコを見ながらの練習も西区ならでは？



女性団員も「自分たちの街は自分た
ちで守る！」の心意気で、グラウンドに
立っています。



地域の防災力を高めて より安全・安心な街に！

西消防団は、西区内の自治会・町内会、学校等への防災訓練や応急手当講習などの予防啓発活動を、一年を通じて数多く実施することで、地域防災力の向上に力を注いできました。



大きな声で「火事だ！」と周囲に知らせましょう



取扱いが簡単で、素早く使える
スタンドパイプ式初期消火器具

身近な初期消火器具のひとつである住宅用消火器具の構造や取扱方法、使用時の注意点などを説明し、訓練用の水消火器具を使つての模擬消火を、老若男女、多くの方に体験していただいたり、

火災、特に大規模地震時に発生した火災に対し、地域住民の方が素早く初期消火活動を行うことで延焼拡大の防止が見込めるため、横浜市全体でも導入事例が増えているスタンドパイプ式の初期消火器具の取扱や、準備から放水までの訓練指導なども行いました。



道幅が狭く、大型の消防車が入っていけない木造住宅密集地域も多くある西区においては、何よりも火災の予防、そして初期消火が重要です。
一人でも多くの方の防災訓練へのご参加をお願いいたします。

編集後記

平成二十八年を振り返ると、地震や台風、その他の大規模災害が、日本そして世界の各地で甚大な被害をもたらした一年でした。私たちの暮らすこの街だったら……と何度考えさせられたことでしょうか。
その時が来ないことを願いつつ、その時に出来ることを少しでも増やそうと、西消防団は一人一人が努力しています。
もし、この「西消防団だより」を通じて消防団の活動にご興味をお持ちいただけましたら、ぜひ入団をご検討ください。
お問い合わせ、お待ちしております！
(西消防団広報委員会)

ここにありますが、あなたの手から始まる地域防災



西消防団 団員募集！

満18歳以上で横浜市西区内に居住、または勤務・在学している方なら
男性でも女性でも入団できます。

お問い合わせは 西消防署庶務課 入団促進アドバイザー 電話 045(313)0119

